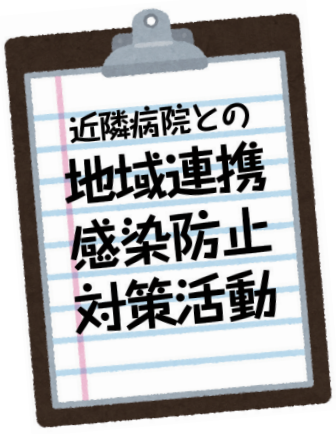
地域に根差した病院として思う事

看護部長　辻 村 淑 子

武蔵野の公園に面した病院の窓から大きな百日紅の樹が見えます。毎年、濃い桃色の花を見事に咲かせ目を楽しませてくれます。

今年も夏の暑い日差しに負けずきれいな色をだし両手を広げたように大きな花の房をつけています。一方、8 月に入り、異常気象の影響か 21 日間も雨続きで梅雨のような天気と積乱雲による雷被害で各地に被害をもたらしました。毎年の雨被害に心が痛みます。



さて、病院では安全管理の視点やサービスの視点、感染防止の視点等いろいろな委員会活動があります。その一つである感染防止対策活動を紹介します。

感染症の発生に対して医師・看護師・薬剤師・検査技師等の多職種が集まり、患者と患者を取り巻く環境について観察や治療に関する薬剤等の情報収集を行い、リスクのアセスメントをして対策やケアを検討しています。先日、感染対策等で地域連携している病院との交流があり、環境ラウンド (感染対策状況の見回り) を受けました。他病院から多面的に院内感染対策のための管理等をチェックしていただき、意見交換することで見えなかった事柄の気づきがあり参考になります。病院では、定期的に院内感染対策に関わっているメンバーが部署別にチェックリストを用いて環境の確認をしていますが、普段気づかなかった点の指摘を受け確認のポイントの修正ができました。

感染対策に対してはこのように年数回、連携施設でお互い合同の話し合いや個別訪問等をして地域の感染管理に役立てています。地域に根差した病院の機能を発揮していくためにも日頃から近隣の病院との連携は大切です。

ところで、今夏に 38 年ぶりにニホンカワウソが対馬列島で発見されたとニュースで話題になりましたが、ちょうどその時期、夏休みで対馬に旅行をしました。ニホンカワウソの話題は現地では関心がなく、ツシマヤマネコの宣伝ばかりでした。対馬の大陸との文化、貿易の窓口として栄えた 1300 年来の歴史に少し触れた旅でした。城下町厳原（いづはら）は 7 世紀から対馬国の国府が置かれ、行政・文化の中心地として栄えたそうです。江戸時代、対馬の藩主、宗義智（よしとし）は 10 万石の殿様ですが、義母の先祖に当たります。万松陰は宗家の菩提寺で 1615 年初代藩主 (宗家 19 代) 義智を弔うために創建されたそうです。先祖の墓所をめぐり思ったことは、対馬は一度も戦火に合わず神の国として肥沃でどこか異国の雰囲気を漂わせる土地でした。

「地域に根差した病院」として思うことは、人間関係のよい病院に患者様が集まるといいます。良い病院のチェックポイントとしてネットで検索すると、患者の目線・立場で医療を行っているか、スタッフ同士での挨拶や雰囲気が良いか、他の病院ときちんと連携がとれているか、対応が丁寧か、などが出てきます。皆様に愛される病院づくりとして、公園のサルスベリの花のように両手を広げいつでも患者さんを受け入れる体制をつくりたいと思います。